

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 16年6月～4-6月期の外需 寄与度はほぼゼロに

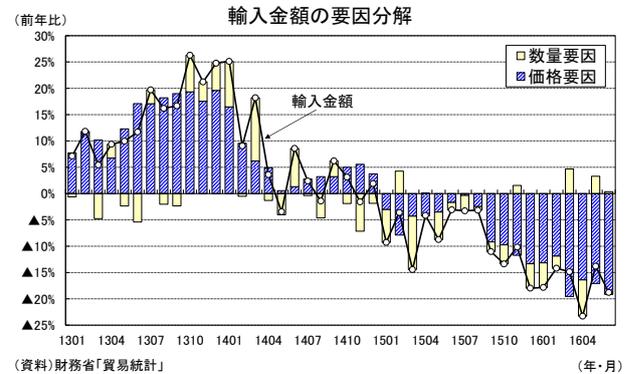
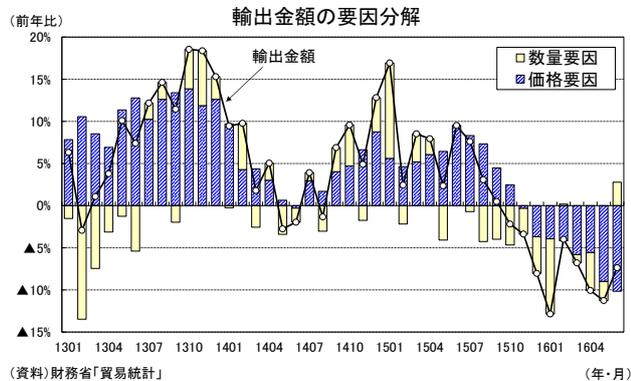
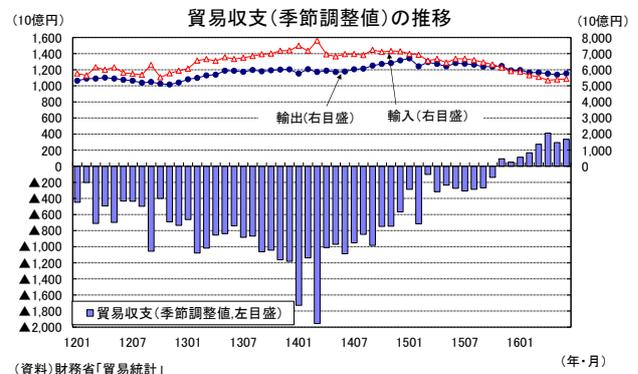
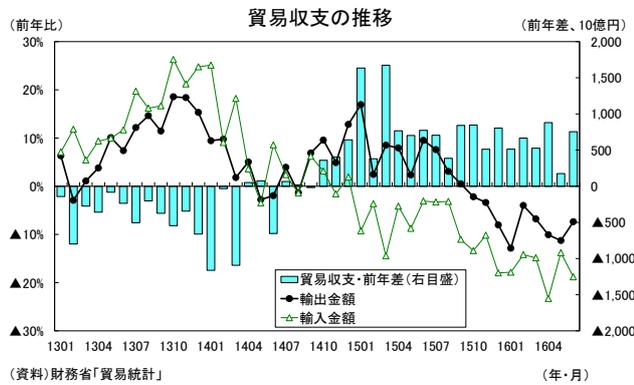
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 原数値の貿易収支は2ヵ月ぶりの黒字

財務省が7月25日に公表した貿易統計によると、16年6月の貿易収支は6,928億円と2ヵ月ぶりの黒字となり、事前の市場予想（QUICK集計：4,948億円、当社予想は4,249億円）を上回った。輸入の減少幅が前月から拡大（5月：前年比▲13.8%→6月：同▲18.8%）する一方、輸出の減少幅が前月よりも縮小（5月：前年比▲11.3%→6月：同▲7.4%）したため、貿易収支は前年に比べ7,537億円の大幅改善となった。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比2.9%（5月：同▲2.4%）、輸出価格が前年比▲10.0%（5月：同▲9.1%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比0.4%（5月：同3.6%）、輸入価格が前年比▲19.1%（5月：同▲16.8%）であった。



季節調整値の貿易収支は3,350億円の黒字となり、5月の2,945億円から黒字幅が若干拡大した。

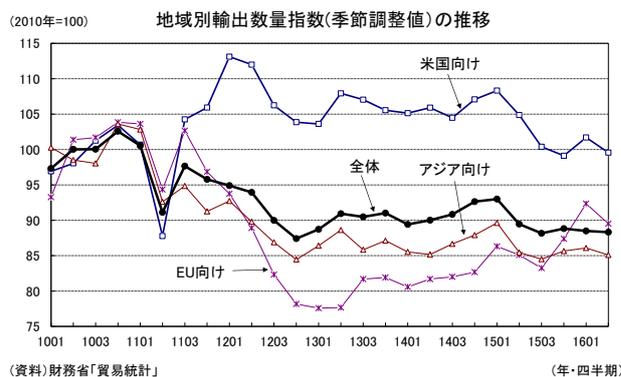
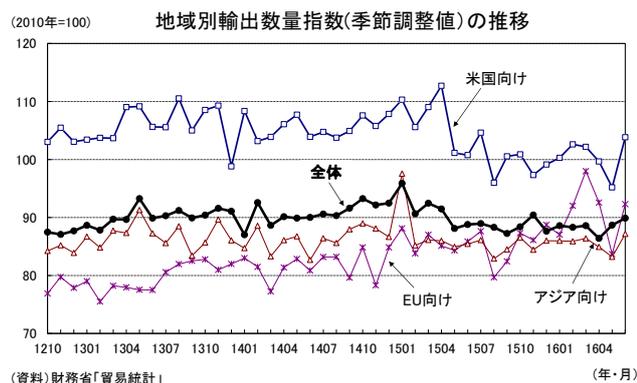
輸出入ともに増加したが、輸出の増加幅（前月比 1.3%）が輸入の増加幅（前月比 0.6%）を上回ったことが貿易黒字の拡大に寄与した。原数値の貿易収支は 2 ヶ月ぶりの黒字だが、5 月の赤字は GW に伴う生産停止の影響でもともと輸出量が少なく赤字になりやすい月という季節性によるものであった。季節調整値の貿易収支は 15 年 11 月に東日本大震災以降初の黒字となった後、8 ヶ月連続で黒字となっている。

2. 輸出数量は横ばい圏の動きが継続

6 月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 2.9%（5 月：同▲6.2%）、EU 向けが前年比 8.0%（5 月：同▲1.4%）、アジア向けが前年比 1.8%（5 月：同▲2.1%）となった。

4-6 月期の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比▲2.1%（1-3 月期：同 2.6%）、EU 向けが前期比▲3.1%（1-3 月期：同 5.7%）、アジア向けが前期比▲1.2%（1-3 月期：同 0.5%）、全体では前期比▲0.2%（1-3 月期：同▲0.4%）と小幅ながら 2 四半期連続の低下となった。1-3 月期とは逆に 4-6 月期は主要 3 地域向けが弱め、中東、中南米、ロシアなどその他地域が強めとなったが、輸出数量全体では海外経済の減速、円高の進展を背景に横ばい圏の動きが続いている。

4-6 月期の輸入数量指数（当研究所による季節調整値）は前期比▲0.9%（1-3 月期：同 1.2%）と 2 四半期ぶりの低下となった。国内需要の低迷を反映し輸入は弱めの動きとなっている。



3. 4-6 月期の外需寄与度はほぼゼロに

6 月までの貿易統計と 5 月までの国際収支統計の結果を踏まえて、16 年 4-6 月期の実質 GDP ベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出、輸入ともに前期比▲0.5%程度の減少となり、4-6 月期の外需寄与度は前期比でほぼゼロ%となることが予想される。

当研究所では鉱工業生産、家計調査、建築着工統計等の結果を受けて、7/29 の weekly エコノミストレターで 4-6 月期の実質 GDP 成長率の予測を公表する予定である。現時点では、外需がほぼ横ばいとなる中、民間消費、住宅投資、公的固定資本形成などの国内需要が増加することから、小幅ながら 2 四半期連続のプラス成長を予想している。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。